

下と隠して問題を解こう!! すべてプリントに記名を必ずすること。

### 文法 文節分け・単語分け

#### 1 文節分けをマスターしよう

##### ポイント①

「ネ」を入れて不自然にならない程度に、できるだけ細かく区切ろう。

例 僕は／第一／中学の／一年生だ。

文節の数は三つだね。

練習問題 ポイントの例にならって、文節の切れ目に線を引きなさい。

- (1) わたしの趣味は読書です。
- (2) 白い馬が草原を走る。
- (3) 父は庭に桜の木を植えた。
- (4) 担任の先生はとても厳しい。
- (5) 今日の海は普段よりもおだやかだ。
- (6) 小さなアリたちがえさを運ぶ。
- (7) 自転車をやつくりと走らせる。
- (8) テストなので勉強しよう。

#### 2 まぎらわしい文節分けに注意しよう

##### ポイント②

切つてはいけない文節に注意!

例 × 市の／サッカー／少年団に／入る。

○ 市の／サッカー少年団に／入る。

「サッカー少年団」で一つの言葉。

例 × 草むらに／ねこが／いる／ようだ。

○ 草むらに／ねこが／いる／ようだ。

「ようた」だけでは意味が通らない。

練習問題 ポイントの例にならって、文節の切れ目に線を引きなさい。

- (1) わたしたちは一年A組です。
- (2) おいしいものをたくさん食べたい。
- (3) 今日の昼ごはんは僕が作る。
- (4) 天気予報で雪だと言っていた。
- (5) 兄の友達の本を貸してくれる。
- (6) 姉は四月から街道を習い始めた。
- (7) 明日は午後から雨が降るそうだ。

|     |   |   |
|-----|---|---|
| 名前  | 姓 | 名 |
| 正答数 |   |   |
| 30問 |   |   |

#### 3 単語分けをマスターしよう

##### ポイント③

文節を、言葉の意味や働きがなくなる程度に、できるだけ区切ろう。

例 僕は／第一／中学の／一年生だ。

「は」「の」「だ」もそれぞれ一つの単語だよ。

練習問題 ポイントの例にならって、文節内の単語の切れ目に「/」を書きなさい。

- (1) 妹は／毎朝／七時に／起きる。
- (2) 学校の／そばに／病院が／ある。
- (3) あの／高い／山が／浅間山です。
- (4) 父は／母と／映画館へ／行く。
- (5) 暗いから／足元に／気を／つける。
- (6) きみこそ／僕らの／希望の／星だ。
- (7) 東北新幹線で／仙台まで／行く／予定だ。
- (8) 田舎から／りんごが／届くらしい。

#### 4 まぎらわしい単語分けに注意しよう

##### ポイント④

形が変わる単語に注意!

例 × 家に／走って／帰る。

○ 家に／走って／帰る。

「走」は「走る」という言葉の形が変化したもの。

例 × 遊びに／行きたいな。

○ 遊びに／行きたいな。

「行き」と「た」と「な」に区切れる。

練習問題 ポイントの例にならって、文節内の単語の切れ目に「/」を書きなさい。

- (1) 夏休みは／毎日／プールで／泳ぎます。
- (2) 今日は／昨日より／暑かった。
- (3) 雨が／降れば／その／行事は／中止だ。
- (4) おもしろい／話を／聞かせて／くれよ。
- (5) 近くで／虫が／鳴いて／いるようだ。
- (6) だれか／僕の／ノートを／知らないか。
- (7) 僕は／弟に／いたずらを／やめさせた。

### 文法 文節分け・単語分け

#### 1 文節分けをマスターしよう

##### ポイント①

「ネ」を入れて不自然にならない程度に、できるだけ細かく区切ろう。

例 僕は／第一／中学の／一年生だ。

文節の数は三つだね。

練習問題 ポイントの例にならって、文節の切れ目に線を引きなさい。

- (1) わたしの趣味は読書です。
- (2) 白い馬が草原を走る。
- (3) 父は庭に桜の木を植えた。
- (4) 担任の先生はとても厳しい。
- (5) 今日の海は普段よりもおだやかだ。
- (6) 小さなアリたちがえさを運ぶ。
- (7) 自転車をやつくりと走らせる。
- (8) テストなので勉強しよう。

#### 2 まぎらわしい文節分けに注意しよう

##### ポイント②

切つてはいけない文節に注意!

例 × 市の／サッカー／少年団に／入る。

○ 市の／サッカー少年団に／入る。

「サッカー少年団」で一つの言葉。

例 × 草むらに／ねこが／いる／ようだ。

○ 草むらに／ねこが／いる／ようだ。

「ようた」だけでは意味が通らない。

練習問題 ポイントの例にならって、文節の切れ目に線を引きなさい。

- (1) わたしたちは一年A組です。
- (2) おいしいものをたくさん食べたい。
- (3) 今日の昼ごはんは僕が作る。
- (4) 天気予報で雪だと言っていた。
- (5) 兄の友達の本を貸してくれる。
- (6) 姉は四月から街道を習い始めた。
- (7) 明日は午後から雨が降るそうだ。

#### 3 単語分けをマスターしよう

##### ポイント③

文節を、言葉の意味や働きがなくなる程度に、できるだけ区切ろう。

例 僕は／第一／中学の／一年生だ。

「は」「の」「だ」もそれぞれ一つの単語だよ。

練習問題 ポイントの例にならって、文節内の単語の切れ目に「/」を書きなさい。

- (1) 妹は／毎朝／七時に／起きる。
- (2) 学校の／そばに／病院が／ある。
- (3) あの／高い／山が／浅間山です。
- (4) 父は／母と／映画館へ／行く。
- (5) 暗いから／足元に／気を／つける。
- (6) きみこそ／僕らの／希望の／星だ。
- (7) 東北新幹線で／仙台まで／行く／予定だ。
- (8) 田舎から／りんごが／届くらしい。

#### 4 まぎらわしい単語分けに注意しよう

##### ポイント④

形が変わる単語に注意!

例 × 家に／走って／帰る。

○ 家に／走って／帰る。

「走」は「走る」という言葉の形が変化したもの。

例 × 遊びに／行きたいな。

○ 遊びに／行きたいな。

「行き」と「た」と「な」に区切れる。

練習問題 ポイントの例にならって、文節内の単語の切れ目に「/」を書きなさい。

- (1) 夏休みは／毎日／プールで／泳ぎます。
- (2) 今日は／昨日より／暑かった。
- (3) 雨が／降れば／その／行事は／中止だ。
- (4) おもしろい／話を／聞かせて／くれよ。
- (5) 近くで／虫が／鳴いて／いるようだ。
- (6) だれか／僕の／ノートを／知らないか。
- (7) 僕は／弟に／いたずらを／やめさせた。

### パワーアップ文法力

#### 2 (4) 解き方のポイント

× 天気予報で／雪だと／言っていた。  
長い熟語は、間違つて区切り過ぎないように注意。

× 机に／置いて／ある／かばんを／とる。  
「机に／置いて／ある」は一つの動作を表す言葉(動詞)は区切るんだね。



#### 1 解き方のポイント

(1) 「白い」と「馬が」のように、修飾・被修飾の関係にあるものは、文節に区切れる。

(2) 「アリ／たちが」とは区切れない。

(3) 「触れよう」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(4) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(5) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(6) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(7) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(8) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(9) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(10) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(11) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(12) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(13) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(14) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(15) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(16) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(17) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(18) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(19) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(20) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(21) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(22) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(23) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(24) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。

(25) 「触れ」の「触れ」は「触れる」という単語の形が変わったもの。「触れ」を「する(しよう)」となつては、二つの文節。



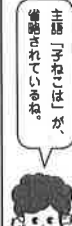
文法 文の組み立て

1 文の成分を見分けよう

ポイント

文節は、「主語」「述語」「修飾語」「接尾語」「独立語」の五つの働きのうちどれかをすること。  
例 おや、かわいい。子ねこが、いるよ。  
主語 → 述語  
独立語 → 修飾語

小さいけれど、とても 元気だね。  
主語「子ねこ」が、省略されている。



練習問題 次の一線部の文の成分をあとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 雨が、弱まった。しかし、風は、まだ、強い。
- (2) 兄は、難しい、問題に、じっくり、取り組む。
- (3) お気に入りの、えんぴつが、短く、なった。
- (4) もしも、田中さんの、お宅ですか。
- (5) 幼稚園児が、公園で、元気に、かけ回る。
- (6) 暑いので、冷たい、ものを、飲みたいな。
- (7) ああ、おながが、すいた。
- (8) まぶしいね、今日の、日差しは。

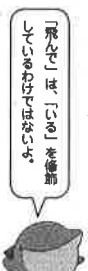
|     |     |
|-----|-----|
| (5) | (1) |
| (6) | (2) |
| (7) | (3) |
| (8) | (4) |

2 文節の関係をとりえよう

ポイント

「並立(対等)の関係」「補助(助)の関係」に注意。  
●並立(対等)の関係  
例 山も、川も、美しい。  
「山」と「川」が並列して、同じ意味で使われている。

●補助(助)の関係  
例 ちやうが、飛んで、いる。  
「飛んで」という状態が、現在ある。



名前 \_\_\_\_\_ 番 \_\_\_\_\_

正答数 \_\_\_\_\_ 時間 \_\_\_\_\_

練習問題 次の一線部どうしの文節の関係をあとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) わたしが、太郎君に、話して、おきます。
- (2) わたしは、兄と、姉が、います。
- (3) 有名な、歌手が、市民会館に、来るそうだ。
- (4) わたしは、今日は、朝から、とても、暇い。
- (5) 僕は、新しい、ラケットを、振って、みた。
- (6) 弟は、祖父の、話を、おとなしく、聞いた。
- (7) わたしの、家の、大は、大きく、黒い。
- (8) 彼の、ほかに、だれも、教室には、いない。

|     |     |
|-----|-----|
| (5) | (1) |
| (6) | (2) |
| (7) | (3) |
| (8) | (4) |

3 修飾・被修飾の関係をとりえよう

ポイント

つながりて、意味が通るかどうかが調べる。  
例 たまたま、自然の、いたずらで、できた。  
×「たまたま」→「自然の」  
×「たまたま」→「いたずらで」  
○「たまたま」→「できた」

練習問題 次の一線部の修飾語が修飾している言葉を、それぞれ一文節で抜き出さない。

- (1) ねえ、もっとくわしく、昨日の、朝に、起こったことを、説明してよ。
- (2) 長い、議論の、末に、ようやく、だれが、班長に、なるか、決まった。
- (3) 裏山に、見た、ことのない、大きな、黄色い、実が、なっていた。
- (4) 公園には、見事な、桜の、木が、あつて、満開の、ころには、多くの、花見客が、こを、訪れる。

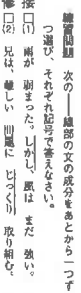
文法 文の組み立て

1 文の成分を見分けよう

ポイント

文節は、「主語」「述語」「修飾語」「接尾語」「独立語」の五つの働きのうちどれかをすること。  
例 おや、かわいい。子ねこが、いるよ。  
主語 → 述語  
独立語 → 修飾語

小さいけれど、とても 元気だね。  
主語「子ねこ」が、省略されている。



練習問題 次の一線部の文の成分をあとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 雨が、弱まった。しかし、風は、まだ、強い。
- (2) 兄は、難しい、問題に、じっくり、取り組む。
- (3) お気に入りの、えんぴつが、短く、なった。
- (4) もしも、田中さんの、お宅ですか。
- (5) 幼稚園児が、公園で、元気に、かけ回る。
- (6) 暑いので、冷たい、ものを、飲みたいな。
- (7) ああ、おながが、すいた。
- (8) まぶしいね、今日の、日差しは。

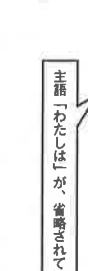
|     |     |
|-----|-----|
| (5) | (1) |
| (6) | (2) |
| (7) | (3) |
| (8) | (4) |

2 文節の関係をとりえよう

ポイント

「並立(対等)の関係」「補助(助)の関係」に注意。  
●並立(対等)の関係  
例 山も、川も、美しい。  
「山」と「川」が並列して、同じ意味で使われている。

●補助(助)の関係  
例 ちやうが、飛んで、いる。  
「飛んで」という状態が、現在ある。



名前 \_\_\_\_\_ 番 \_\_\_\_\_

正答数 \_\_\_\_\_ 時間 \_\_\_\_\_

練習問題 次の一線部どうしの文節の関係をあとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) わたしが、太郎君に、話して、おきます。
- (2) わたしは、兄と、姉が、います。
- (3) 有名な、歌手が、市民会館に、来るそうだ。
- (4) わたしは、今日は、朝から、とても、暇い。
- (5) 僕は、新しい、ラケットを、振って、みた。
- (6) 弟は、祖父の、話を、おとなしく、聞いた。
- (7) わたしの、家の、大は、大きく、黒い。
- (8) 彼の、ほかに、だれも、教室には、いない。

|     |     |
|-----|-----|
| (5) | (1) |
| (6) | (2) |
| (7) | (3) |
| (8) | (4) |

3 修飾・被修飾の関係をとりえよう

ポイント

つながりて、意味が通るかどうかが調べる。  
例 たまたま、自然の、いたずらで、できた。  
×「たまたま」→「自然の」  
×「たまたま」→「いたずらで」  
○「たまたま」→「できた」

練習問題 次の一線部の修飾語が修飾している言葉を、それぞれ一文節で抜き出さない。

- (1) ねえ、もっとくわしく、昨日の、朝に、起こったことを、説明してよ。
- (2) 長い、議論の、末に、ようやく、だれが、班長に、なるか、決まった。
- (3) 裏山に、見た、ことのない、大きな、黄色い、実が、なっていた。
- (4) 公園には、見事な、桜の、木が、あつて、満開の、ころには、多くの、花見客が、こを、訪れる。

1 解き方のポイント

(1) 「しかし」は、文と文をつないでいる。

(2) 「じっくり」は、「取り組む」を修飾している。

(4) 「もしも」という呼びかけは、他の文節とは直接関係なく、比較的独立している。

(5) 「かけ回る」は、述語。主語「幼稚園児」の動作を表している。

(8) 普通の文は、「主語」「述語」の順だが、この文は「述語」「主語」と逆になっている。これを倒置という。

2

(1) 「おきます」のおき(おく)は、「前もってする」という意味をさえる。

(5) 「みた」の「み(みる)」は、「試す」という意味をさえる。

(6) 「話を」は、「聞いた」をくわしく説明している。

(7) 「大きく」と「黒い」は並立(対等)の関係を表す述語で「どんなだ」を表す。

3

(1) 「くわしく」は、「細かく」ところまでよくという意味で「くわしく」は「説明してよ」を修飾している。

(2) 「ようやく」は「決まった」を修飾している。「ようやく」は「やっと」という意味。「ようやく」という言葉は、かきとらえよう。

(3) 「大きな」は「実が」を修飾している。「見た」の「くわしく」は「大きな」「黄色い」はすべて、実の様子を説明している。

(4) この文は、「公園には、桜の木が、あつた。そして、花見客が、訪れる。」という一文を一文につなげたものを。「公園には」は「あつて」を修飾している。



15

行書

楷書と比べながら書く

見本をよく見て、楷書との違いに注意しながらそれぞれ  
四回書きましよう。

さんずい

洗

見本

洗

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

きへん(四画目が省略される)

横

見本

横

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

ごんべん

話

見本

話

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

くさかんむり(筆順が変化する)

花

見本

花

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

いしへん

砂

見本

砂

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

のぎへん(五画目が省略される)

秋

見本

秋

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

しめすへん(筆順が変化し、点画が省略される)

祝

見本

祝

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

てへん

指

見本

指

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

みみへん(筆順が変化する)

聴

見本

聴

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

いとへん

絵

見本

絵

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

りっしんべん

性

見本

性

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

ころもへん(筆順が変化し、点画が省略される)

複

見本

複

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

あめかんむり

雲

見本

雲

まだれ

店

見本

店

こめへん(六画目が省略される)

粉

見本

粉

れんが(れつか)

無

見本

無

ふるとり

難

見本

難

さとへん

野

見本

野

やまいだれ

病

見本

病

ふりふり

忘

見本

忘

たけかんむり

答

見本

答

しんによう

道

見本

道

のぶん(ぼくくり)

敬

見本

敬

もんがまえ

開

見本

開

見本をよく見て、楷書との違いに注意しながらそれぞれ  
四回書きまわそう。

21

行書

行書の仮名を調和させて書こう

見本をよく見て、平仮名の字形を確認し、  
見本の右に書きましよう。

見本

いろはにほへとちりぬるを

わかよたれそつねならむ

うるのおくやまけふこえて

あさきゆめみしゑひもせすん

◆いろは歌の漢字 色はにほへと散りぬるを 我が世たれぞ常ならむ 有為の奥山今日越えて 浅き夢見じ酔ひもせず

( 年 ) ( 組 ) ( 番氏名 )

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山に  
まじりて竹を取りつつ、よるづの事に使ひけり。  
名をば、さぬきの造となむいひける。その竹の中  
にもと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて  
寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、  
三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

## 重要語句の確認

|       |        |
|-------|--------|
| □よろづ  | いろいろな  |
| □あやし  | 不思議だ   |
| □いと   | たいそう   |
| □うつくし | かわいらしい |

今ではもう昔のことだが、竹取のおじいさんと呼ばれる人がいたそう。野山にまじって竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名を、さぬきの造と言った。その竹の中に、根本が光る竹が一筋あった。不思議に思っ近づいてみると、筒の中が光っている。それを見れば、三寸ほどの人が、たいそうかわいらしい姿ですわっていた。

28

楷書

手紙を書こう

見本

頭語といい、手紙の書き始めの言葉である。

拝啓

朝夕は涼しく日ごとに過ごしやすいな  
てまいりました。お変わりありませんか。  
夏休み中は、長期にわたって面倒を見て  
いただきまして、ありがとうございます。  
おかげさまで、とても楽しい思い出を残す  
ことができました。特に、花火大会は心に  
残っております。

またお目にかかれましてを楽しみにし  
ております。

時節柄風邪などひかぬようご自愛くだ  
さい。

結語といい、手紙のしめくくりの言葉である。

敬具

九月十二日

大塚 みゆき

倉田 恵美様

◆読み方 拝啓・涼しい・面倒・柄・風邪

見本をよく見て、文字の大きさや配置に注意し、見本の下に書きましょう。  
手紙のルールとして頭語と結語をおさえましょう。